

home.

Shizuoka Saiseikai Communication Paper



June.2019

Vol.34

3_済生会のトータルケア

急性期リハビリテーション

4 DOCTOR'S VOICE

麻酔科

5_静岡済生会ニュース

健康講座&トークショー第4弾

北館1・2階トイレリニューアル

6_地域連携による安心の医療

医療連携医のご紹介

7_インフォメーション

済生会フェア開催のお知らせ

特集

静岡済生会のトータルケア〈変形性膝関節症〉

膝の痛みを 治す・支える



膝の痛みを、治す・支える

中高年に多い膝の病気〈変形性膝関節症〉とは？

Dr.に
聞きました!



その痛みは「変形性膝関節症」かも

「立ち上がる時に膝が痛い」、「膝の内側を押すと痛い」、「正座がしにくい」といった、50代～60代に多い膝の痛み。その8割は、〈変形性膝関節症〉という病気です。膝の骨と骨の間にある軟骨が加齢とともにすり減ることで痛みが起り、ひどくなると安静にしているだけでも痛みます。骨粗鬆症や体重の増加によってかかるケースも多く、特に女性は閉経後に発症しやすくなります。

「人工膝関節」に替えて痛みを軽減

早期発見できれば、自宅での運動や投薬、注射などで症状を抑え、病状が進んでいる場合は手術という選択肢もあります。手術には骨の一部を切って角度を調整する骨切り術もありますが、当院では〈人工膝関節〉を入れる手術を年間30～40例行っています。最近は、すり減りやすい膝の内側だけを人工関節に替える「部分置換術」が増えつつあります。異状のない部分を温存することで、患者さんの手術の負担や術後の痛みや違和感を軽減できるメリットがあります。術後はリハビリを行い、杖を使って歩けるようになって退院するまで約3週間～6週間ほどかかります。



予防策は毎日の食事と運動

変形性膝関節症を予防するには、定期的な運動で骨を適度に刺激することが大切。また、サプリメントに頼りすぎず栄養バランスの取れた食事を。骨のためにはカルシウムやきのこ類などに含まれるビタミンDを意識して摂るといいでしょう。

整形外科 医長

Dr.小倉跡夢 Atomu Ogura

日本整形外科学会専門医 / 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医



整形外科のトータルケア

治す

専門家チームがベストな医療を提供

患者さんは病状も家庭環境もそれぞれ。治療も悩みも皆違います。その一人一人に合わせてベストな医療を提供できるよう、整形外科の担当医を中心に他の診療科や看護師、薬剤師、リハビリテーション科などの専門家が緊密に連携しています。地域の診療所とも連携し、退院後も続く治療を見守り続けます。

さまざまな専門家が
患者さんを支える

満足した生活を送れるよう、トータルに支えます。

手術前から リハビリスタート

手術前にリハビリを行う理由は2つあります。

1つ目は、手術前の膝の動きや筋力、歩き方、日常生活の状況などを確認すること。それにより手術後のリハビリがスムーズに進みます。

2つ目は、手術前に運動療法を行うこと。それにより手術後の機能低下を最低限に防ぐことができます。また、担当療法士と顔を合わせることで、心身の変化も見守ることができ安心して手術に臨んでいただくことができます。



手術後のリハビリは 翌日から

手術翌日から患者さんの状態を確認し、運動療法を開始します。できる限り自分で動いていただきながら、筋力の回復を促し、早期から歩く力を獲得できるようサポートします。



退院までチームで サポートします

毎日のリハビリでは、関節の運動、筋力トレーニング、バランストレーニング、歩行練習などを行います。手術前のリハビリを参考に、患者さんそれぞれの生活スタイルやニーズに寄り添った介入を心掛けています。

患者さんが一日も早く回復し、手術の前よりも満足して生活できるよう、医師や看護師などと情報交換を行い、チームで支えています。



リハビリテーション科 理学療法士
山崎年弘 Toshihiro Yamazaki

退院後の生活を見据えてサポート

膝の治療を済ませ、退院した後もスムーズに生活ができるよう、入院した直後から退院支援専門のスタッフがご本人の生活環境に応じた様々な支援を行っています。

入院中はもちろん、退院後の不安や医療・福祉制度のご相談は地域医療センターにご連絡下さい。

支える

静岡済生会のトータルケア

～ 治す医療と支える医療～

適切な治療はもちろん、治療によって生じる心身の悩み、就労や医療費の相談など治療からその後のサポートまで切れ目のないケアに力を入れています。

治療面

ベストな医療が受けられる 体制を整えています

病状も家庭環境もそれぞれの患者さんがベストな治療を受けられるよう、医師や看護師、メディカルスタッフなどはもちろん、診療科同士が緊密に連携しています。

また、他院とも情報交換を行い、連携を図っています。

辛い症状はさまざまなチームが マネージメントします

病気やけがと向き合う患者さんの身体的・精神的な辛さを和らげるさまざまなチームが活動しています。精神科を中心とした入院患者さんの心のサポートや、心身の辛さや不安を軽減する緩和ケアなど職種間で多角的な検討を行いながら、最善なケアの提供に努めています。

生活面

生活の質を考えた 治療やサポートを行います

退院後の生活の質をより良いものにするために、入院した直後からご本人、ご家族の生活環境に応じた様々な支援を行っています。

さらに就労支援や社会復帰に向けての相談などにも応じています。

治療費の相談・支援を 行っています

社会福祉法人の使命として、経済的事情で治療が受けられない患者さんのために、福祉制度の活用や治療費に関する相談にお応えしています

入院早期から患者さんを支える 急性期リハビリテーション

突然のケガや病気で入院したら...

体調が優れず思うように動けなくなり、日常生活に支障を来すこともあります。

また、長時間ベッドの上で過ごすことで、心や体の機能が衰えてしまう恐れがあります。

それを防ぎ、一日も早く日常に戻るために、早期からリハビリテーションを開始し、

スムーズな回復や退院を目指しています。

医師、看護師、退院支援専門スタッフなどと連携を図り、

急性期から患者さんやご家族をしっかり支えています。



病態が日々変わる急性期。的確な判断を心がけています。

入院患者さんは、ベッド上で体を動かさないことから発症する廃用症候群という状態になる恐れがあります。それを防ぐため、早くから担当医の判断のもと、動かせる範囲で関節の曲げ伸ばしなどを行います。急性期の患者さんは病態が刻々と変わるので、血液やレントゲンなどのデータを見極めながら慎重に進めます。突然の入院に戸惑いがちな患者さんの声に耳を傾け、自己紹介の段階から信頼していただけるよう努めています。

理学療法士

山崎年弘 Toshihiro Yamazaki

PT

入院直後からのリハビリで、退院後の自立度が変わります。

突然の病気やケガで体が不自由になってしまった患者さんは、その後の生活を大きく変えなければなりません。作業療法士は、トイレ動作・整容動作など、その患者さんに必要な日常生活が実現できるよう、早くから生活動作に着目してリハビリを実行します。入院中から患者さんの退院後の生活をイメージして“できる”ことを活かしながらよりよい生活を送れるようにサポートします。

作業療法士

山下絵理乃 Erino Yamashita

OT

コミュニケーションの改善と、嚥下(えんげ)の問題を防ぎます。

言語聴覚士は脳卒中などによりコミュニケーションが取りづらくなった患者さんのリハビリや、食べ物を飲み込む、嚥下(えんげ)の問題を抱えている患者さんのリハビリを行っています。脳の病気ばかりではなく、加齢による嚥下障害で誤嚥性肺炎が重症化してしまう患者さんも少なくありません。入院直後からコミュニケーションの取り方を検討したり、食事の問題を見極め、安全に食べることをサポートします。また、口の中の衛生管理も看護師と連携して行っています。

言語聴覚士

芝口萌子 Moeko Shibaguchi

ST

DOCTOR'S VOICE

ドクターズ
ボイス

／ 私たちから皆さまに届けたい声がある ／

VOL.54 麻酔科

NAME

山本 典正

Norimasa Yamamoto

部長／日本麻酔科学会指導医／日本ペインクリニック学会専門医／
日本医師会認定産業医／昭和大学麻酔科非常勤講師

DATA.1

手術を受ける患者さんが全身麻酔で眠っている間に活躍しているのが、「命の番人」麻酔科医です。山本医師は当院の麻酔の第一人者として後輩医師を指揮し、一つ一つの手術現場にくまなく目を配っています。

DATA.2

静岡市出身。大学卒業後、大病院で経験を重ね、2001年から当院の麻酔科を牽引。現在も大病院で週1回行っているペインクリニック外来で「起きている」患者さんと話せるのが楽しみ。



VOICE

麻酔科医は手術中の患者さんの安全を守る「命の番人」です。

手術の前に注射する麻酔薬は、実はほんの数分しか効いていません。手術の間はガスや点滴で全身麻酔の薬をずっと体内に送り続けているんです。麻酔をかけられている患者さんは痛いとか辛いとか話したりできませんから、麻酔科医は患者さんの体にかかる負担を想像しながら、鎮痛や鎮静などの薬を臨機応変に使い分けています。

点滴や薬の調整だけでなく、患者さんの呼吸や尿の量にも目を配り、必要に応じて輸血も行います。執刀医が手術を進めている間、患者さんの身の安全を守るのが麻酔科医。その意味

で、カッコよく言えば麻酔科医は「命の番人」です。執刀医が安心して手術に集中できるようにする一方で、命の危険が迫れば執刀医の手を止めて患者さんの状態を立て直すこともあります。何としても患者さんを手術室から生還させることが僕たちの仕事だと思っています。

全国的な麻酔科医不足。周囲との協力体制で乗り切っています。

手術中の患者さんの状態は急激に変化します。当院では日々複数の手術が並行して行われていますので、担当科の先生方にも協力してもらいながら、指示出しをすることもあります。

全国的に医師不足の昨今、麻酔科医は特に

足りていません。実は僕も元々麻酔科医にならなかったわけではなく、麻酔について学んでから他科に移ろうと思っていましたが、結局は麻酔専門医としての立場から幅広い診療科に携わるようになりました。当院に赴任した当初は1人しか医師がおらず、やむなく他科の先生に助けていただいたりしていました。幸い、今では僕が教えていた研修医が戻ってきてくれたりして協力体制が整ってきています。麻酔科医になった研修医も数人いますので、将来に期待したいですね。

MINI VOICE

安心の手術のために。当院には麻酔科医がいます。

当院では患者さんの麻酔を担当する医師が事前説明を行います。あまり詳しく説明しすぎて患者さんの不安を煽るよりも、安心していただくことを心がけています。手術室で眠っている間も、患者さんの安全は私たち麻酔科医が守ります。安心して手術に臨んでください。

ご相談
ください!!



静岡済生会ニュース

S A I S E I K A I N E W S

健康講座&トークショー第4弾



3月9日、開院70周年記念健康講座&トークショー「病院に頼らない健康のヒケツ 第4弾」を静岡県立大学短期大学部講堂で開催し、約160名が参加しました。今回は整形外科小倉跡夢医師の健康講座と、俳優赤井英和さん、歌人の田中章義さん、小倉医師、血液内科竹内隆浩医師のトークショーでした。

健康講座では、ロコモティブシンドロームを解説し、自宅でできる体操を自らレクチャー。トークショーでは、赤井さんの健康法として「体を冷やさないよう足湯を実施」されていると話されました。

北館1・2階トイレリニューアル



患者満足度調査や、皆さまからのご意見でもご指摘いただいております、北館1階・2階のトイレをこのほどリニューアルしました。節水・節電機能を導入、またオストメイト・多目的シートも設置され、明るく機能的になりました。



連携医のご紹介

地域の中核を担う総合病院として、地元の医院との連携も欠かせません。

静岡市葵区

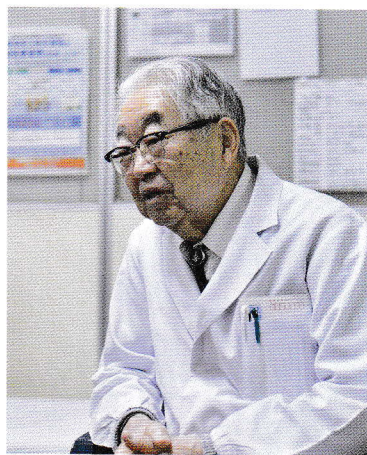
すがの いんぶん いん

菅野医院分院

診療科目 内科・循環器科・腎臓内科(人工透析)

〒420-0911 静岡市葵区瀬名1丁目7番3号

☎054-262-5050 web▷ <http://www.sugano-iin-bunin.com>



菅野 寛也 院長

患者さんの声に耳を傾け、
寄り添う医療を。

人工透析を必要とする患者さんの「夜間透析を行ってほしい」という要望により昭和51年に透析専門のクリニックを設立。通院が難しいという方のためには無料の送迎をしている。透析治療中でも美味しいものが食べたいという方のために給食を用意。また自然災害に備え、発電・貯水設備を設けている。これらは「社会還元である」と院長は言う。患者さんの不安を少なくするために病診連携で適切な診断や治療を行っており、患者さんの声に耳を傾け寄り添ってきた。医院の屋上には飛行機(F-86)があり、見学をすることもできる。

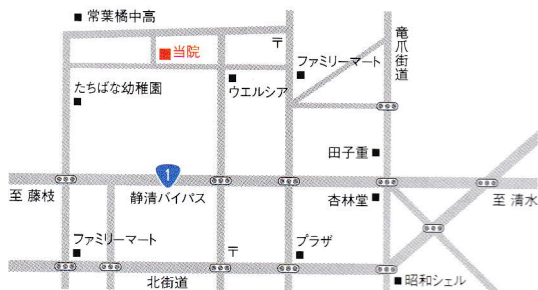
診療時間	月	火	水	木	金	土	日
一般外来 9:00～17:00	●	●	●	●	●	△	×
人工透析 8:30～22:30	●	△	●	△	●	△	×

【休診日】日曜、祝祭日

※【一般外来】土曜は12:00迄。【人工透析】火・木・土曜は18:00迄。

ACCESS

- ・駐車場完備
- ・静鉄バス「西奈中学常葉大学静岡瀬名キャンパス入口」下車 徒歩8分



静岡市清水区

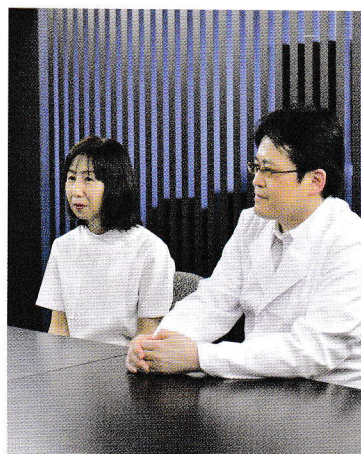
さかべじゅんかんき ないか ないか ぶんじんか

阪部循環器内科・内科 婦人科クリニック

診療科目 循環器内科・内科・婦人科

〒424-0905 静岡市清水区駒越西1丁目2番62号

☎054-335-5000 web▷ <https://sakabe-clinic2.jimdo.com>



阪部 江里子 副院長 阪部 優夫 院長

専門性を生かし、
健康寿命を延ばす医療を。

モダンな外観の医院を平成28年に開業。同じ建物に循環器内科・内科と婦人科があり、ご夫婦それぞれの専門分野の診療を行っている。循環器内科・内科は一般内科診療に加え、心疾患(虚血性心疾患、心不全、不整脈等)の早期発見と治療・再発予防を行っている。婦人科は女性のヘルスケアに力を入れ、初経以降の全ての婦人科的悩みに対応。プライバシーに配慮し、内科とは受付・待合を別にしている。内科と婦人科は健康管理という面で共通する部分も多く、特定健診、婦人科検診や静岡市骨粗鬆症検診等を通して健康寿命の延伸を目指している。

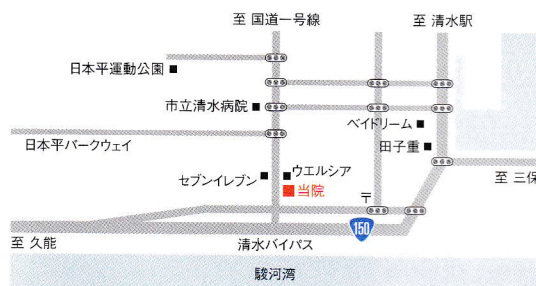
診療時間(循環器内科・内科)	月	火	水	木	金	土	日
午前の部 8:30～12:00	●	●	●	●	●	●	×
午後の部 14:00～17:30	●	●	×	●	●	×	×

【休診日】水曜午後、土曜午後、日曜、祝祭日

※婦人科・女性ヘルスケアの診療時間はホームページでご確認ください。

ACCESS

- ・駐車場完備
- ・静鉄バス「忠霊塔前」下車 徒歩1分



2019
今年は改元記念フェア!

済生会フェア

6/8 土
SATURDAY
入場無料!

日時 2019.6/8(土)
 10:00~14:00

場所 静岡済生会総合病院
 静岡市駿河区小鹿1-1-1

新鮮野菜
販売

販売・飲食
コーナー

JA南部じまん市
スリランカカレー
お弁当販売

ステージ
イベント

吹奏楽演奏
ミニコンサート

静岡市立
豊田中学校

整理券
配布

①10:00~
②12:00~

無料
測定コーナー

からだバランスチェック
血中脂質測定
骨密度測定
動脈硬化測定

お仕事
体験コーナー

医師体験
看護師体験
薬剤師体験

手術室
見学

お楽しみ
コーナー

ハンドマッサージ
キッズアドベンチャー
脳トレゲーム

先着800名様
なでしこの苗
プレゼント!

みんなのこころ



静岡県済生会参加施設: 静岡済生会総合病院 / 静岡医療福祉センター-児童部・成人部・ライトホーム / 静岡市発達障害者支援センター / 静岡市中心障害児福祉センター-いこいの家 / 特別養護老人ホーム小鹿苑 / 特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑 / 静岡市桜の園・静岡市桜の園城北館 / 静岡市中心障害者ケアセンター / ワーク春日 / 静岡済生会訪問看護ステーションおしか / 静岡県川奈臨海学園 / 静岡済生会看護専門学校

お問い合わせ TEL.054-285-6171 静岡済生会総合病院 済生会フェア事務局

※内容は変更となる場合がございます。
 予めご了承ください。

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します

済生会とは？

社会福祉法人 済生会
静岡済生会総合病院
 Shizuoka Saiseikai General Hospital

〒422-8527 静岡県静岡市駿河区小鹿一丁目1番1号
 TEL.054-285-6171 FAX.054-285-5179
<http://www.siz.saiseikai.or.jp/hosp>

明治44年、明治天皇より済生勅諭とともに下賜されたお手元金150万円を基金として、当時の総理大臣桂太郎が「恩賜財団済生会」を創立。以来、済生会では創立の精神を引き継ぎ、保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んでいます。